

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成31年2月20日

三田市議会議長 厚地弘行 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	無会派	代表者	小杉崇浩	印 ■
		議員名		
派遣者氏名	小杉崇浩			
視 察 先	1) 鹿児島県始良市 2) 鹿児島県志布志市			
調査事項 (調査目的)	1) 移住しやすい街 推進について 2) 空家等対策計画について			
日 時	H31年2月4日(月曜日)～H31年2月5日(火曜日)			
視察先対応者	始良市： 東馬場弘氏(副議長)、原口浩幸氏・指宿晃彦氏・安富拓正氏(企画部地域政策課)、迫田耕蔵氏(議会事務局) 志布志市： 豊倉勇司氏・富岡裕氏・原栄次氏(建設課)、中尾秀昭氏・田川貴雄氏(企画政策課)、藤後広幸氏・毛野仁氏(議会事務局)			
添付資料	・始良市視察報告(小杉) ・始良市視察資料 ・志布志市視察報告(小杉) ・志布志市視察資料 ・視察写真			

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

## 始良市視察報告（小杉）

### 【視察内容】

移住しやすい街 推進について

### 【所見】

#### ・始良市の概要について

始良市は、人口約7万7千人、面積231平方キロメートルであり、市南部にJR及び国道が通り、その周辺に商業施設と宅地が開発され、現在も人口が増加中である。市の西隣は鹿児島市であり、鹿児島市の中心市街地までは20分程度で行くことができる。市の北部は、山林が大部分を占める農村地域となっており、北部の人口は減少している。都市近郊に位置する地理的に三田市とよく似た市であり、北部と南部で生活環境が大幅に異なるという共通点のある市である。

#### ・移住定住促進事業について

始良市の移住定住促進事業は、平成24年に中山間地域移住定住促進事業を開始、平成26年からは空き家リフォーム事業と空き家バンク事業を進めている。平成26年、29年、30年に定住促進住宅建設事業を実施している。平成29年からは、中山間地域移住定住促進事業を見直し、新たにふるさと移住定住促進事業を行っている。また、鹿児島県と連携し、かごしま移住カタログ（かごしま連携中枢都市圏くらしガイドブック）を発行し、県外からの移住の促進に取り組んでいる。

市の南部については、交通利便性に恵まれていることもあり、鹿児島市のベッドタウンとして発展しているが、市の北部については、積極的な移住促進施策にも関わらず人口は減少している現状である。そのため、ふるさと移住定住促進事業は、北部地域への移住定住を目的としたものとなっている。具体的には、始良市ふるさと移住定住促進条例に基づき、住宅等取得補助金、子ども補助金、住宅増築補助金、家賃補助金、引越費用補助金があり、最大310万円の補助金がもらえるしくみとなっている。この補助金の補助対象地区は過疎の進んでいる地域に限定しており、転居日に世帯責任者が65歳未満であることや自治会に加入することなどを条件にしている。

定住促進住宅は、中山間地域に主に若年層の定住を促進するための借上型市営住宅であり、平成26年に30戸、29年に4戸、30年に6戸の建築をしている。18歳未満が60人くらい入居しており、一定の成果を上げている。

これだけ手厚い対策を施しても、中山間地域においてはここ5年間で463人の減少となっており、過疎化の進行を食い止めることは容易ではない。三田市においても、農村地域の人口減少は喫緊の課題であり、今後の移住定住促進を考えるにあたり、始良市の取組みを参考にしていきたい。

## 志布志市視察報告（小杉）

### 【視察内容】

#### 空家等対策計画について

### 【所見】

#### ・志布志市の概要について

志布志市は、人口約3万1千人、面積約290平方キロメートルで、農畜産物やうなぎの養殖等が主な産業となっている。また、志布志港は、九州で唯一の中核国際港に位置付けられており、国際バルク戦略港湾にも選定され、現在、整備が進められているところである。高齢化率は32.9%となっており、鹿児島県全体よりも高い水準であり、人口はここ10年で約3千人減少している。特に農村地域において人口減少が進んでおり、空き家問題も深刻化している。

#### ・空家等対策について

志布志市における主な空き家対策事業は、平成22年度に志布志市危険廃屋解体撤去補助事業から始まり、平成25年には空き家バンク制度を開始、平成27年度にはシルバー人材センターに委託して空き家調査を実施している。そして、平成28年度に空家リフォーム助成事業開始、平成29年度には、シルバー人材センターと空き家等の定期的な管理の推進に関する協定を締結している。

平成27年から3年をかけて実施した空き家調査によると、市内の空き家率は18.34%（15226件中2792件）に上り、そのうち、住むことができない「放置」「不適」と分類されたものは1549件である。

危険廃屋解体撤去事業は、解体にかかる費用のうち上限30万円を市が補助するもので、平成22年から30年までの間に、505件が執行されている。空き家リフォーム助成事業は、工事費の2分の1（上限50万円）を助成するもので、平成28年から30年の間に18件が実施されている。シルバー人材センターが実施する空き家の管理は、平成27年から30年の間に、251件が実施されている。

三田市においては、住宅・土地統計調査（抽出調査）によると、平成25年の空き家率は10.8%となっており、全国平均（13.5%）と比較して低い水準にはあるものの、その率は少しずつ上昇している。また、平成28年度に行った空家等実態調査によると、878戸の空き家（戸建住宅）があることが明らかになっている。所有者へのアンケート（回収数307件、回収率48.1%）によると、このうち86件は「住むには支障がない」と答えているが、手直しが必要な空き家も多い。また、107件は「維持管理を定期的に行っている」が、44件は「おこなっていない」との結果である。志布志市のように、代執行に至る前に補助をしてでも危険な家屋は所有者の責任で解体するように進めることや、空き家リフォーム助成で積極的な利活用を進めていくことも必要であると思われる。

歓 迎

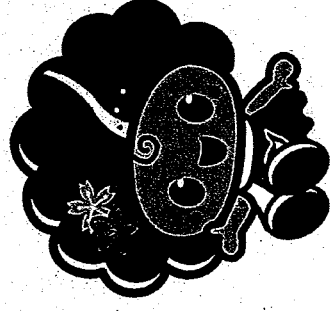
三田市議会議員の

皆さま

ようこそ

始良市へ

平成31年2月4日(月)



# 志布志市の空き家対策について

志布志市建設課  
都市政策推進室  
平成31年2月